

# 下水汚泥灰肥料に活用 原料国産化で安定供給へ

【埼玉】埼玉県は7月上旬、下水汚泥燃焼灰肥料「荒川クマムシくん1号」を原料の一部に使った循環型肥料「クマムシくん888」の販売を始めた。下水汚泥資源の肥料利用により、肥料原料の国産化と安定供給が期待される。

埼玉県

カーの朝日アグリア  
(東京都豊島区)と連

携して、24年9月から26年3月まで栽培試験を実施。肥料効果、土壌・作物中の肥料法で定められている有害成分について、成分が同じ一般的な肥料と同程度であることを確認した。

「クマムシくん888」は朝日アグリアが生産、保証成分は窒素全量8%、リン酸全量8%、カリウム全量8%。粒状で1袋20kg入り。JA全農さいたまを通じて県内のJAで販売し、農業者だけでなく一般の人でも購入できる。

菌体りん酸肥料は、国内資源である下水汚泥から作られる肥料の利用促進へ2023年10月にできた新しい肥料規格。農水大臣の確

認を得た品質管理計画の下で生産するもので、成分が保証され、肥料会社が肥料の原料として利用できる。県では、下水汚泥燃



「クマムシくん888」

焼灰を菌体りん酸肥料に登録し、肥料原料として利用する取り組みを行っている。「荒川クマムシくん1号」は24年4月に全国の自治体で初めて菌体りん酸肥料に登録された。全てのロットで肥料法に基づき有害成分を分析し、基準適合を確認してから出荷するなどの品質管理を徹底し、肥料会社に肥料原料として販売している。

県は、県農業技術研究センターや肥料メー